

Die Welt der Metallbearbeitung
The world of metalworking



プレスリリース

From Sylke Becker
Phone +49 69 756081-33
Fax +49 69 756081-11
E-mail s.becker@vdw.de

エモ・ハノーバー2013ー成長著しい工作機械市場で日本が存在感

【2012年12月11日・東京】 「エモ・ハノーバー」は、世界最大の金属加工見本市で、来年は2013年9月16日から21日に開催される。この見本市は、工作機械や関連部品のメーカーが世界中の顧客のニーズに応えるべく、自社の製品や技術、サービスを展示する晴れの舞台である。

本見本市の主催団体であるドイツ、フランクフルトのドイツ工作機械工業会（VDW）の総務部長であるクラウス-ペーター・クーンミュンヒは、東京で開催された記者会見で、業界が大きな変化に直面していることに言及した。どの国でも、生活水準が向上するにつれ、便利で優れた製品への需要が高まってきている。そして、それら製品生産の重要な要素が工作機械なのである。

世界の工作機械の市場規模は、この20年間で2倍に増加し、2011年は860億米ドルに達した。2001年以降、市場は米ドル換算で年率約10%成長している。この成長の原動力はアジアで、世界で生産された工作機械の5台中3台がアジアで使われている。

成長する工作機械の世界市場ー設備投資意欲旺盛

アナリストによると、工作機械の市場は、次回のエモが開催される2013年には8%成長し、980億米ドルになるという。経済成長が2012年に足踏みするものの、GDPと工業生産は世界的に高まっていくとみている。世界経済をけん引する中国では、これまでGDP

は2桁の成長をみたが、中期的には工業生産と設備投資は1桁に低下してきている。このことから、一人あたりの収入が高まり、成長の原動力が設備投資から、個人消費に移ってきていることがうかがえる。まさに、物やサービス、電気製品、自動車、それもより環境に優しい自動車を求めるのは中間層なのである。このような現象は中国のみの現象ではない。世界の新興国で同じような現象が見られる。

自動車産業を始め、その下請け、機械、製鉄、金属加工、電気、精密、光学、医療技術、航空、鉄道、造船に至るまで、産業のすべての分野でバランスのとれた利益配分が計られている。これらのすべての業界で来年は今年よりも平均で9%多く増産と設備更新のために設備投資することだろう。

日本のメーカーによる設備投資も、来年には2.5%の程度、2014年にはそれ以上を見込んでいる。どのような技術や機械、処理が求められているのか。その答えは、「エモ・ハノーバー2013」で定評のある日本のメーカーのブースで得られるだろう。日本で工作機械の販売先で最も重要な業界は、電気、電子、機械、製鉄、自動車であり、これらすべてが、「エモ・ハノーバー2013」における対象とする顧客グループである。2011年の「エモ・ハノーバー」では、日本から550名の来場者と75社（19,370㎡）の出展社があった。

日本からの参加者と出展社が個性を発揮

アナリスト達は、福島における再建事業と民需増加で、2013年に日本の景気が上向くことを期待している。日本の製造業者は、円高により国内における製造原価の圧力にさらされ、アジア諸国の製造基盤に投資している。2013年の工作機械の購入額は、82億米ドルに達する見込みである。成長のけん引産業は、電気、機械、精密、光学である。

日本は工作機械の販売でも製造でも世界第二位であり、「エモ・ハノーバー」の参加国の中でも代表的な参加国である。2011年には、合計75社が約20,000平方メートルの展示スペースに製品を展示した。ヨーロッパ以外からの参加では、日本からの参加が最も多い。日本のメーカーは、国際見本市において積極的に出展することで、世界最大の輸出国であることを印象づけている。また、「エモ」はヨーロッパの顧客に接する絶好の機会

でもある。ヨーロッパは日本にとって重要な輸出先で、約 13%のシェアで市場規模は 16 億米ドルである。さらに、「エモ」の顧客の 3 割以上がアジアとアメリカである。「日本からの出展社も訪問者も、エモで金属加工の全てにふれることができる。日本の工作機械関係者は必ず参加すべき見本市である」とクーンミュンヒ総務部長が締めくくった。

世界最大の金属加工見本市「エモ・ハノーバー」について

「インテリジェントプロダクション」をテーマに、製造技術を誇るメーカーが世界中から参加する「エモ・ハノーバー2013」は、金属加工に関わる世界最大の国際専門見本市であり、今日すべての製造プロセスにおいて中核を成す最新の金属加工に関わる幅広い技術を展示する。具体的には、最新の機械や効率の高い技術、生産支援サービス、製造プロセスにおける持続可能性など、様々な技術や手法が紹介される。今回注目すべき技術は、金属加工工作機械、製造システム、高精度ツール、自動材料搬送、コンピュータ技術、産業用電子機器とその付属品である。「エモ・ハノーバー」には、機械やプラント製造の業界の他、自動車、自動車部品、航空宇宙、精密機械、工学、造船、医療技術、ツールや金型の製造、鉄鋼、軽量建築といったユーザー業界から、多数の来場者が見込まれる。世界中から集結する製造技術の専門家の重要な会合の場でもある「エモ・ハノーバー」には、前は2,000社を超える出展社と、世界100カ国を超える国々から約140,000人もの来場者を集めた。エモ (EMO) は、European Committee for Cooperation of the Machine Tool Industry (CECIMO) の登録商標である。)

エモの記者発表で使用した記事ならびに画像は下記サイトから入手できます：
www.emo-hannover.de/presseservice.

下記のソーシャルメディアからもエモをご覧ください：



http://twitter.com/EMO_HANNOVER



<http://facebook.com/EMOHannover>



<http://www.youtube.com/metaltradefair>



<http://linkedin.com/company/emo-hannover>



<http://www.cnc-arena.com/de/newsroom/emohannover>